

1 人口について ~人口の将来推計~

(1) 人口推計の結果

推計の考え方

- 今回は、第四次箕面市総合計画第3期実施計画の初年度である平成19年度(2007年度)から、同総合計画の中で示された人口推計の最終年度である平成27年度(2015年度)までの9年間の人口推計を行った。なお、各年度の人口は、いずれも年度末(3月31日)時点のものであり、特に注釈がある場合を除き、以下についても同様とする。

推計の方法

- 本市人口について「既成市街地人口」「新市街地人口」「外国人登録人口」の3種に分類して推計を行い、それらの合計を将来人口とした。
- 「既成市街地人口」は、ここ数年の傾向から人口動態が人口推計期間内においても大きく変化しないと判断し、過去の人口動態を基礎として将来人口を推計するコーホート変化率法を用いて人口推計を行った。
- 「新市街地人口」は、開発に伴い大規模な人口流入が予想されることから、各市街地に計画値として設定されている流入計画人口の数値を採用した。
- 「外国人登録人口」は、その増減について不確定要素が多いため、過去の人口動態からの推計は適当でなく、また、人口推計期間内に大きな変化も見込めないため、直近の人口の近似値で固定した。

推計の結果

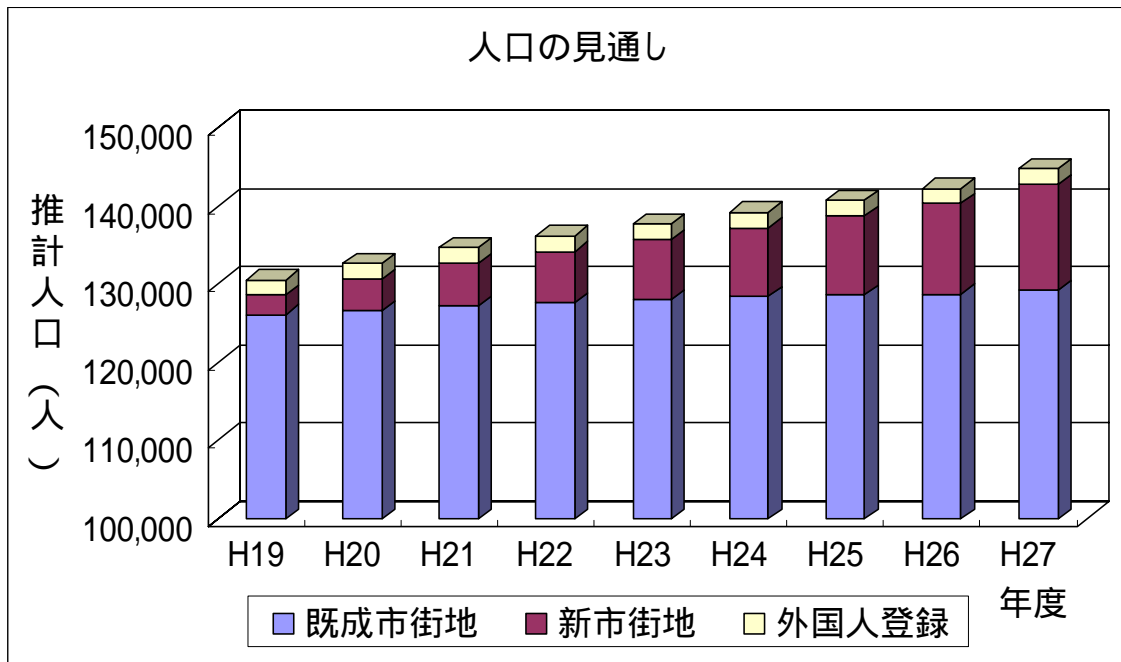
- 上記の手法に基づいて計算を行った結果、第3期実施計画の目標年度である平成22年度(2010年度)の将来人口は136,212人となった。将来人口の内訳は、既成市街地人口が127,642人、新市街地人口が6,570人、そして外国人登録人口が2,000人となっている。

(図表1) 将来人口の見通し

(平成19年度(2007年度)~平成27年度(2015年度))

(単位:人)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
既成市街地	126,131	126,557	127,218	127,642	128,026	128,394	128,640	128,770	129,256
新市街地	2,445	4,120	5,485	6,570	7,670	8,855	10,140	11,530	13,575
外国人登録	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
合計	130,576	132,677	134,703	136,212	137,696	139,249	140,780	142,300	144,831



(2) 人口推計の基礎

既成市街地人口について

- ・ コーホート変化率法を用いて推計するにあたっては、過去の一般的な傾向を勘案する必要がある。そこで、過去7年間(平成12年度(2000年度)～平成18年度(2006年度)^{*1})の住民基本台帳における人口動態について、検証を行った。
- ・ 住民基本台帳人口は、平成12年度(2000年度)に121,103人、平成18年度(2006年度)には125,523人となっており、増加傾向にある。
- ・ 平成17年度(2005年度)以降、新市街地であるかやの中央(箕面新都心)を始めとする大規模開発地域において、人口流入が始まっており、これは特殊な人口動態であるといえる。
- ・ 既成市街地人口の人口動態には、特殊な変動要因が含まれていないことを前提にコーホート変化率法を用いて推計を行うこととしたため、特殊な人口動態を含まない平成12年度(2000年度)から平成16年度(2004年度)までの人口を基準として人口推計を行った。
- ・ その結果、第3期実施計画の目標年度である平成22年度(2010年度)には127,642人、平成27年度(2015年度)には129,256人となり、微増傾向となった。

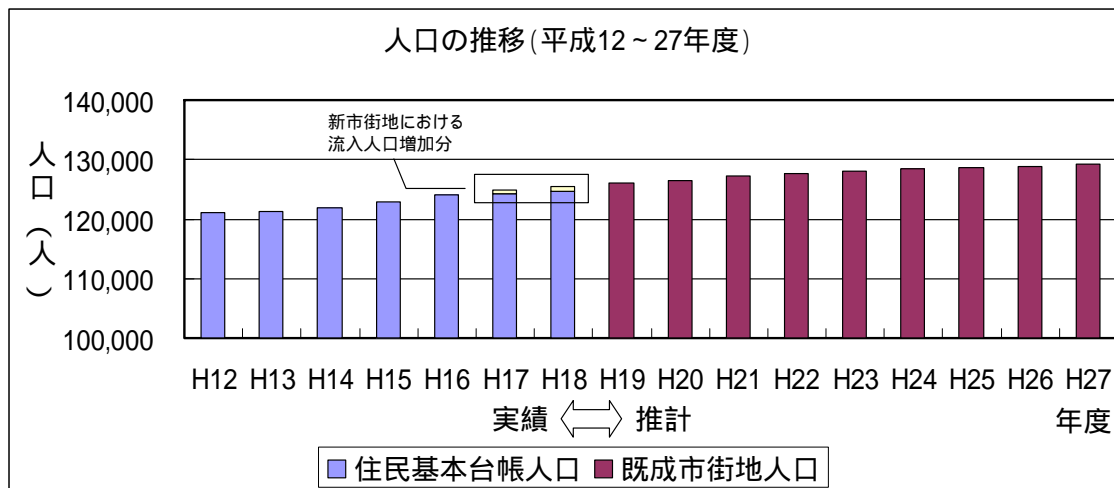
^{*1} 平成18年度(2006年度)

ここでは、平成18年12月末住民基本台帳人口(実績値)を使用している。

(図表 2-1) 住民基本台帳人口・既成市街地人口の推移
(平成 12 年度 (2000 年度) ~ 平成 27 年度 (2015 年度))

(単位:人)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	住民基本台帳は実績値 既成市街地は推計値	
住民基本台帳	121,103	121,232	121,847	122,897	124,126	124,852	125,523		
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
既成市街地	126,131	126,557	127,218	127,642	128,026	128,394	128,640	128,770	129,256



新市街地人口について

- ・ 新市街地のうち、彩都 (国際文化公園都市) 及び箕面森町 (水と緑の健康都市) については、「箕面市大規模地域整備開発特別委員会における長期財政収支見通し^{*1}」の流入計画人口を使用した。
- ・ 新市街地のうち、小野原西特定土地区画整理事業に伴う開発地域及びかやの中央 (箕面新都心) については、「平成 18 年度 人口推計 (小野原西、萱野)^{*2}」の流入計画人口を使用した。
- ・ 各新市街地の流入計画人口を合計した結果、第 3 期実施計画の目標年度である平成 22 年度 (2010 年度) には 6,570 人、平成 27 年度 (2015 年度) には 13,575 人となっている。

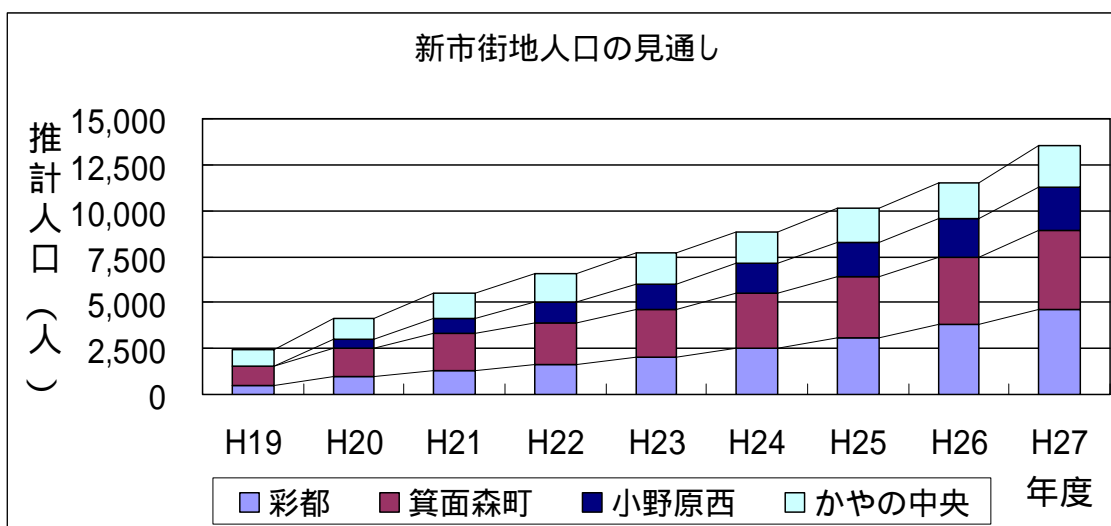
(図表 2-2) 新市街地人口の見通し
(平成 19 年度 (2007 年度) ~ 平成 27 年度 (2015 年度))

(単位:人)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
彩 都	525	1,005	1,305	1,605	2,010	2,520	3,120	3,825	4,635
箕面森町	990	1,485	1,980	2,310	2,640	2,970	3,300	3,630	4,290
小野原西	0	470	810	1,150	1,390	1,630	1,870	2,110	2,350
かやの中央	930	1,160	1,390	1,505	1,630	1,735	1,850	1,965	2,300
合 計	2,445	4,120	5,485	6,570	7,670	8,855	10,140	11,530	13,575

^{*1} 「箕面市大規模地域整備開発特別委員会における長期財政収支見通し」
平成 15 年 2 月に都市整備部 (現在の都市計画部) が作成。

^{*2} 「平成 18 年度 人口推計 (小野原西、萱野)」
平成 18 年 4 月に都市計画部が作成。



外国人登録人口について

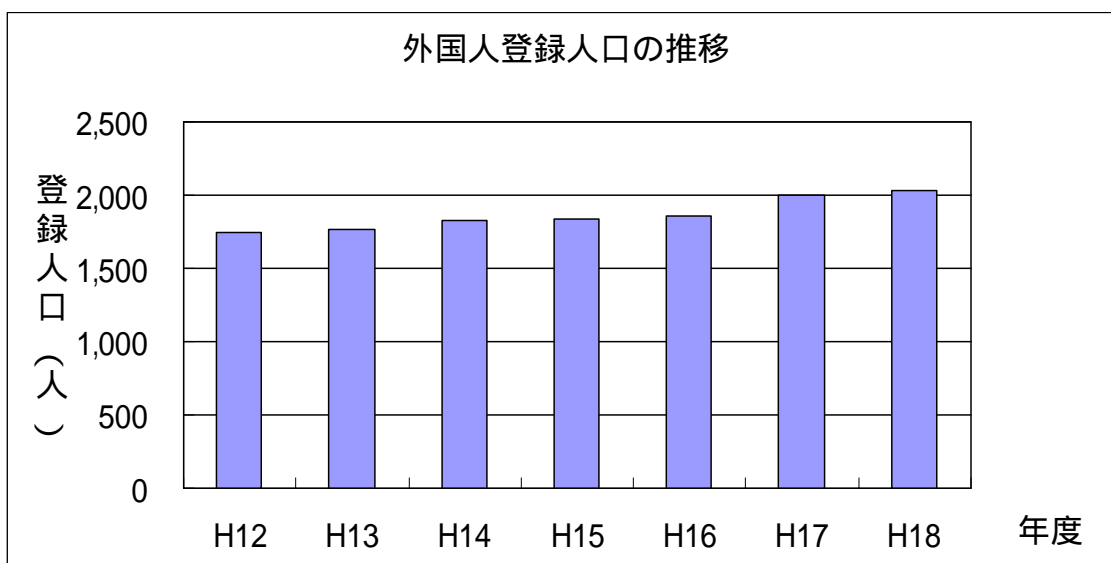
- ・ 外国人登録人口は、平成 12 年度（2000 年度）に 1,748 人、平成 18 年度（2006 年度）には 2,030 人となっており、微増傾向にある。
- ・ しかし、その増減については不確定要素が多く、過去の人口動態から将来の外国人登録人口を予測することは適当でない。
- ・ そこで、将来の外国人登録人口は現在の人口規模と比べて大きく変化しないと想定し、各年度の推計人口を 2,000 人に固定した。

（図表 2-3）外国人登録人口の推移

（平成 12 年度（2000 年度）～平成 18 年度（2006 年度））

（単位：人）

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
外国人登録	1,748	1,762	1,822	1,832	1,856	1,996	2,030



(3) 第四次箕面市総合計画との比較

推計手法の比較

- ・ 第四次箕面市総合計画の人口推計では、既成市街地及び新市街地人口をコーホート要因法¹を用いて算出しているが、本推計では、既成市街地人口についてはコーホート変化率法を用い、新市街地人口については流入計画人口を用いている。
- ・ 本推計の外国人登録人口は、第四次箕面市総合計画と同様、一定の人口を毎年加算していくという手法を採っている。

(図表 3-1) 人口推計手法の比較

	第四次箕面市総合計画	第四次箕面市総合計画 第3期実施計画
基礎データ (基準年度)	住民基本台帳人口 (平成5年度～平成9年度)	住民基本台帳人口 (平成12年度～平成18年度)
既成市街地人口推計方法	コーホート要因法	コーホート変化率法
新市街地人口推計方法		流入計画人口を加算
外国人登録人口推計方法	一定人口を毎年加算	一定人口を毎年加算

推計結果の比較

- ・ 本推計の既成市街地人口は、第四次箕面市総合計画の推計人口を上回る結果となったが、平成22年度での差は約1.0%であった。
- ・ 本推計の新市街地人口は、開発計画の内容や事業スケジュールに変更があったため、第四次箕面市総合計画における平成22年度の推計人口を大きく下回った。
- ・ 本推計の外国人登録人口は、現在の人口規模を考慮して、推計人口に加える人数を1,700人から2,000人に改めた。

(図表 3-2) 人口推計結果の比較 (平成22年度(2010年度))

	第四次箕面市総合計画	第四次箕面市総合計画 第3期実施計画
既成市街地人口推計結果	126,314人	127,642人
新市街地人口推計結果	10,561～16,188人	6,570人
外国人登録人口推計結果	1,700人	2,000人
総人口推計結果	138,575～144,202人	136,212人

¹ コーホート要因法

男女別・年齢階級の死亡率、移動率、女子の年齢階層別出生率と新生児の出生性比の4つの要因から人口の推計を行う方法。人口動態に特殊な変動要因を含む場合の人口推計に使用される。

考察

- ・ 既成市街地人口については、第四次箕面市総合計画の人口推計及び本推計の間で、明確な差はなかった。
- ・ 新市街地人口については差が生じたが、計画の変更は第四次箕面市総合計画でも想定している。
- ・ 本推計の流入計画人口は、計画の変更を受けて見直した数値のため、第四次箕面市総合計画より精度の高い推計となっている。
- ・ したがって、第3期実施計画においては本推計によって算出された推計人口を採用することとし、同実施計画の目標年度である平成22年度（2010年度）の将来人口を13万6千人とする。

2 人口構造について ～3階級別構成比率～

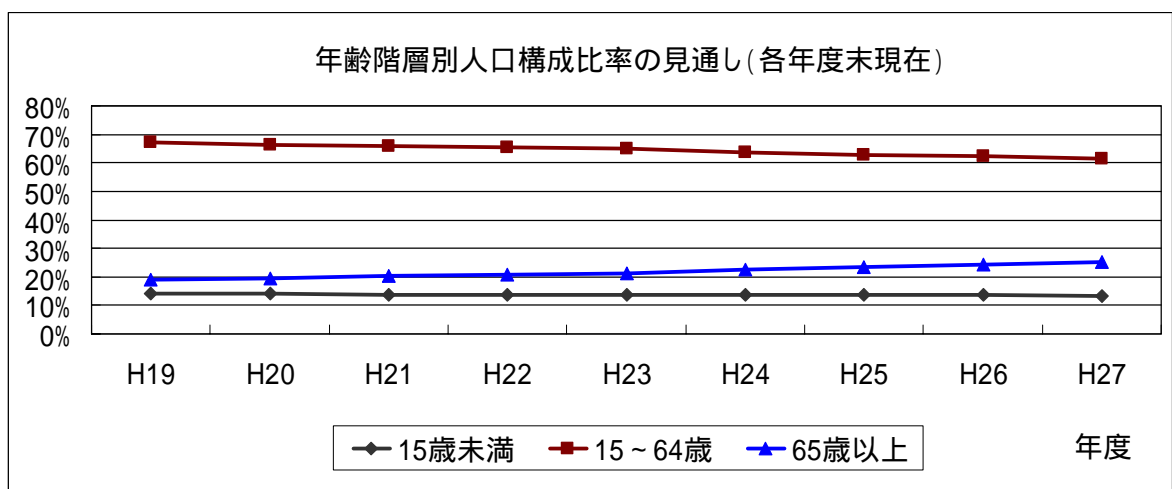
- 本市の実績人口及び将来推計人口を、15歳未満の年少人口、15～64歳の生産年齢人口、65歳以上の高齢人口の3階級に分け、その比率を示した。
- 15歳未満人口は、平成22年度(2010年度)には18,933人(少子化率13.9%)、平成27年度(2015年度)には19,407人(同13.4%)になると見込んでいる。年少人口は、人数は微増傾向にあるものの構成比率では減少傾向にあり、少子化の進行が顕在化しつつある。
- 15～64歳人口は、平成22年度(2010年度)には89,083人(総人口に占める割合65.4%)、平成27年度(2015年度)には89,216人(同61.6%)になると見込んでいる。生産年齢人口は、人数規模では大きく変わらないが、構成比率では一貫して減少を続けている。
- 65歳以上人口は、平成22年度(2010年度)には28,196人(高齢化率20.7%)、平成27年度(2015年度)には36,208人(同25.0%)になると見込んでいる。高齢人口は、人数も構成比率も急激に増加しており、人口推計期間の最終年度においては市民の4人に1人が高齢者となることが予測されている。

人口構成比率の見通し(平成19年度(2007年度)～平成27年度(2015年度))

(単位:人)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
合 計	130,576	132,677	134,703	136,212	137,696	139,249	140,780	142,300	144,831
15歳未満	18,281	18,707	18,724	18,933	19,002	19,077	19,146	19,210	19,407
比 率	14.0%	14.1%	13.9%	13.9%	13.8%	13.7%	13.6%	13.5%	13.4%
15～64歳	87,616	87,965	88,500	89,083	89,227	88,841	88,551	88,653	89,216
比 率	67.1%	66.3%	65.7%	65.4%	64.8%	63.8%	62.9%	62.3%	61.6%
65歳以上	24,679	26,005	27,479	28,196	29,467	31,331	33,083	34,437	36,208
比 率	18.9%	19.6%	20.4%	20.7%	21.4%	22.5%	23.5%	24.2%	25.0%

注:人口構成については、既成市街地における人口構成比率が全市においても適用されるものとする。



3 世帯数について ～世帯数の将来推計～

(1) 推計の期間

- 平成 19 年度 (2007 年度) ～平成 27 年度 (2015 年度) までの 9 年間。

(2) 推計の方法

- トレンド延長法 (数学的方法)
過去の世帯数から導出される世帯主率 (人口に占める世帯主数の割合) を用いて世帯数を求める。(世帯数 = 世帯主数 = 人口 × 人口に占める世帯主数の割合)
過去の世帯数について
1995、2000、2005 年の国勢調査結果を用いた。
将来の世帯主率について
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計 (都道府県別推計)」における、将来の動向の考え方を用いた。
- 家族類型別世帯主率
推計の対象は国勢調査 (総務省統計局) における一般世帯とし、国勢調査の一般世帯の家族類型を集約し、「単独世帯」「夫婦のみの世帯」「夫婦と子から成る世帯」「ひとり親と子から成る世帯 (世帯主: 男)」「ひとり親と子から成る世帯 (世帯主: 女)」「その他の一般世帯」「非親族世帯」の 7 区分とした。

(3) 推計の結果

家族類型別世帯数の推移

本推計における 一般世帯の家族類型		世帯数 (実績)			世帯数 (推計)										
		H7	H12	H17	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27		
一般世帯	単独世帯	13,084	15,137	16,117	16,553	16,820	17,076	17,268	17,456	17,653	17,847	18,039	18,360		
	親族世帯	核家族世帯	夫婦のみの世帯	7,785	8,874	10,373	10,654	10,825	10,990	11,114	11,235	11,361	11,486	11,610	11,817
			夫婦と子から成る世帯	19,202	17,818	17,585	17,741	17,864	17,972	18,007	18,035	18,068	18,094	18,115	18,260
		ひとり親と子から成る世帯 (世帯主: 男)	437	496	544	559	568	576	583	589	596	602	609	620	
		ひとり親と子から成る世帯 (世帯主: 女)	2,494	2,905	3,407	3,499	3,556	3,610	3,650	3,690	3,732	3,773	3,813	3,881	
		親族世帯	その他の	3,728	3,323	3,095	3,051	3,035	3,016	2,983	2,948	2,914	2,877	2,839	2,818
	非親族世帯	76	157	172	177	179	182	184	186	188	190	193	196		
一般世帯総数		46,806	48,710	51,293	52,234	52,847	53,424	53,789	54,139	54,511	54,870	55,219	55,953		
施設等の世帯数		35	42	53	54	55	56	57	57	58	59	59	60		
総世帯数 (世帯の種類「不詳」を含む)		46,988	48,984	51,646	53,044	53,897	54,720	55,333	55,936	56,567	57,189	57,806	58,835		